

平成 25 年 3 月 1 日 Club C 会議メモ（文責：東北大須藤）

開催場所：北海道大学学術交流会館

参加者：阿多・関谷（産総研）、小林（大阪大）、石田・古川・須藤（東北大）

各グループから 24 年度の成果と 25 年度の計画について報告がされた。

①阿多グループ報告（報告者：阿多）と議論

- ・ ISO/TC266 のメンバー国により、WG4 の内容を ISO で議論すべきかどうかの投票が 5 月 18 日までに行われる予定
- ・ WG1-3 については、戦略的議論はこれから始まる
- ・ PEN の社会とのインプリケーション成果をどのように定量にするか
- ・ バイオミメティクスの標準化においては、民間からどれくらい提案がされるかが重要で、そのためにも民間が「バイオミメティクス」にもっと馴染みを持つ工夫が必要
- ・ 5 年度に「生物規範工学」を世の中に使ってもらうためにどうしていけばよいのかを考える必要があり、そのためにもロードマップを作っていく必要がある

②山内・小林グループ（報告者：小林）と議論

- ・ 機能や分野を絞り込んでいくと最終的には 39 の解決法のどれかになる。その解決法部分に肉付けをしていき、すごい自然データベースや特許データベースにもつながるようにする。
- ・ いくつかの例を入れたデータベースの骨格を作り、まずは具体的なサンプルを実際に見られるように（デモできるように）する。

③石田グループ（報告者：古川）と議論

- ・ ライフスタイルデザインからテクノロジー抽出までのプロセスを、企業の協力も得ながら実施中
- ・ バックキャストによるライフスタイル創出、社会受容性評価は予定通り終了し、ニーズ・シーズ・マッチングの検討を開始している
- ・ プロセスのどの段階で自然に探しに行くのかなどのニーズ・シーズ・マッチング手法を、90 歳ヒアリング結果を用いたフィルタリングも入れて開発する

④その他

- ・ 来年度の Club C 年間スケジュールを作成する
- ・ 次回：第 2 回総会終了後（6 月あたり）